

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## 英語学の教科書を編む

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口, 治彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2020">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2020</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 英語学の教科書を編む

山口治彦

概論書はたいていつまらないものです。当該分野の研究の結果（知識）を1冊の中のできるだけもれなく整理することに腐心するからです。そこには、対象に——ことばの不思議に——迫っていくスリリングな過程が抜け落ちていきます。

そこで、個別的な言語現象をできるだけくわしく取り上げ、ことばの不思議を学習者が自ら経験することを目指して、英語学の概論書を編むことを考えつきました。ことばの不思議を、英語の姿を、どのようにとらえてゆくのか、そのための方法や考え方を披露することに力を注ぐつもりです。

したがって、本書は英語学の知識を網羅的に示すことを目指しません。具体的なことばの現象を眺めながら、飛び石を渡るように英語学の分野を俯瞰すること、それが本書の第一の目標です。

また、実際に教室で英語学を教えていて感じることですが、大学院進学を目指す人や英語教師を目指す人をのぞけば、学生は卒業後、英語学の知識を必要としません。それは、おそらく英語学だけでなく、ほかのすべての学問分野についても言えることではないかと思います。

ならば、教室で何をを目指すのか。

考えるための型を学ぶ、リサーチの方法を学ぶ、議論や発表の手法を学ぶ、そういうことではないかと思います。ですが、人は型だけを学ぶことはできません。型や手法を学ぶためには、型の中身を埋める実質が必要です。私たちの場合、その実質は英語学の知識です。

こういったことを念頭に英語学の概論書を作ろうと思い立ちました。英語学関係の同僚に声をかけたところ、幸い、本多啓、三間英樹、那須紀夫、そして星野徳子の賛同を得ることができました。本書は、この5名による英語学教科書編集のパイロットスタディーです。4本の記事を採録することにしました。

この4本の文章もとに議論を重ね、最終的には10数本の文章で構成する教科書を編もうと思います。ことばの不思議を体感し、考える型を学べる概論書を目指しています。